

生活支援コーディネーター 「いいものみ〜っけ！」

NO.12

シトラスリボンプロジェクトご存じですか。

このプロジェクトは、コロナ差別やコロナに対する偏見をなくそうと作られたプロジェクトです。「たとえコロナウイルスに感染しても、誰もが地域で笑顔の暮らしを取り戻せる社会を目指し、お互いが「ただいま」、「おかえり」と言い合える心地良い空気を創ろうという想いから生まれました。



10年前、東日本大震災で大きな被害を受け、つらい寒さの中「悲しさ・先の見えないむなしさの中に命の大切さ」を充分に感じ取り大震災を乗り越え、新しい生活環境が創られました。そして今、また私たちの「ふだんの暮らし」を揺さぶっているコロナウイルス感染症。いつだって・だれだって・どこにいても感染のリスクはゼロではありません。

感染拡大を防ぐために、「自分自身の予防対策や行動変容」が必要になると同時に、誰もが少しでも心のびやかに暮らせるような地域の在り方が、今こそ問われているのかもしれない。

誰もが恐怖や不安を持っています。だからこそ、お互いが思いやりのある空気を持ち、安心・安全が守られる地域であってほしいものです。

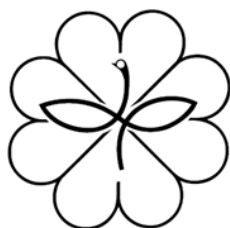
シトラスリボンの3つの輪は「地域」、「家庭」、「職場（学校）」を表現しています。誰もが暮らしやすい地域をつくることで、差別や偏見の広がりを防ぎ、みんなで協力して乗り越えることを目指しています。

現在、今プロジェクトの趣旨に賛同し動き出そう・動き出している地域があります。活動はそれぞれ違いますが素敵な取り組みですね。

○女川町民生児童委員協議会定例会

土井会長さんのもとへ愛媛県からシトラスリボンの情報提供があり、定例会にてプロジェクトの趣旨説明と取り組みについて話題提供がありました。

この取り組みが身近な方との会話の中での話題の一つになり、地域が安心・安全で暮らせる町となるよう地域の人々に、優しさと思いやりの心を持つことを広げる活動を啓発していくこともこれから必要となってくるとの話がありました。



○女川南区 『福祉活動推進員・民生児童委員から地域へ発信』

震災後、生涯学習課を通じて昭和女子大学の生徒と、交流を重ねてきていた女川南区は、今回、昭和女子大学から地域の中でシトラスリボンを話題にしてほしいとお話があり、生涯学習課、加納氏による趣旨説明とリボンの作り方のレクチャーを受けて、取り組むことになりました。

福祉活動推進員や民生児童委員のシトラスリボン作成の活動を聞いて賛同された住民の方々と、「まずは、自分たちの地域へ発信していこう」と取り組みが始まりました。



女川南区の木村区長さんは、「これからの福祉活動推進員の活動地域の中で、見守り活動をするうえでの、声かけの際に、きっかけづくりとして使っていければと考えています。」また、「皆さんの協力があってこそこの取り組みですが、学校や医療・介護施設等へも広げられたらと思っています。」と話されていました。

コロナ禍の中ではありますが、活動とプロジェクトをうまくマッチングさせた取り組みです。



○大原北区 趣味の粘土細工で啓発運動

大原北区でもシトラスリボン活動に取り組んでいます。

大原北区婦人部の役員の方々は、活動自体がコロナ禍で自粛している中で、今後、どのようにシトラスリボン活動を展開していくべきか協議を重ねています。

また、鈴木洋子さんは、趣味である粘土細工でシトラスリボンのブローチを作り啓発運動を行っています。運動公園住宅にあるふれあいカフェ内で、作成したブローチを100円で販売し、売り上げのお金をカフェへ寄付するという活動も行っています。

